

7. 不測事態「水位不明」(C3)

(1) 目的

本制御の目的は、原子炉水位が不明な場合に原子炉の冷却を確保することである。

(2) 導入条件 (注1)

- ・「反応度制御」(RC/Q)を除き、「スクラム」(RC)他全ての制御において、原子炉水位が不明となった場合。
- ・「反応度制御」(RC/Q)の水位不明を実施中において、全ての制御棒が全挿入又は0.2(最大未臨界引き位置)位置まで挿入された場合。
- ・「D/W温度制御」(DW/T)において、D/W温度が水位不明判断曲線に達した場合。
- ・不測事態「急速減圧」(C2)において、水位が判明しない場合。又は、水位不明判断曲線に達した場合。

(3) 操作のポイント

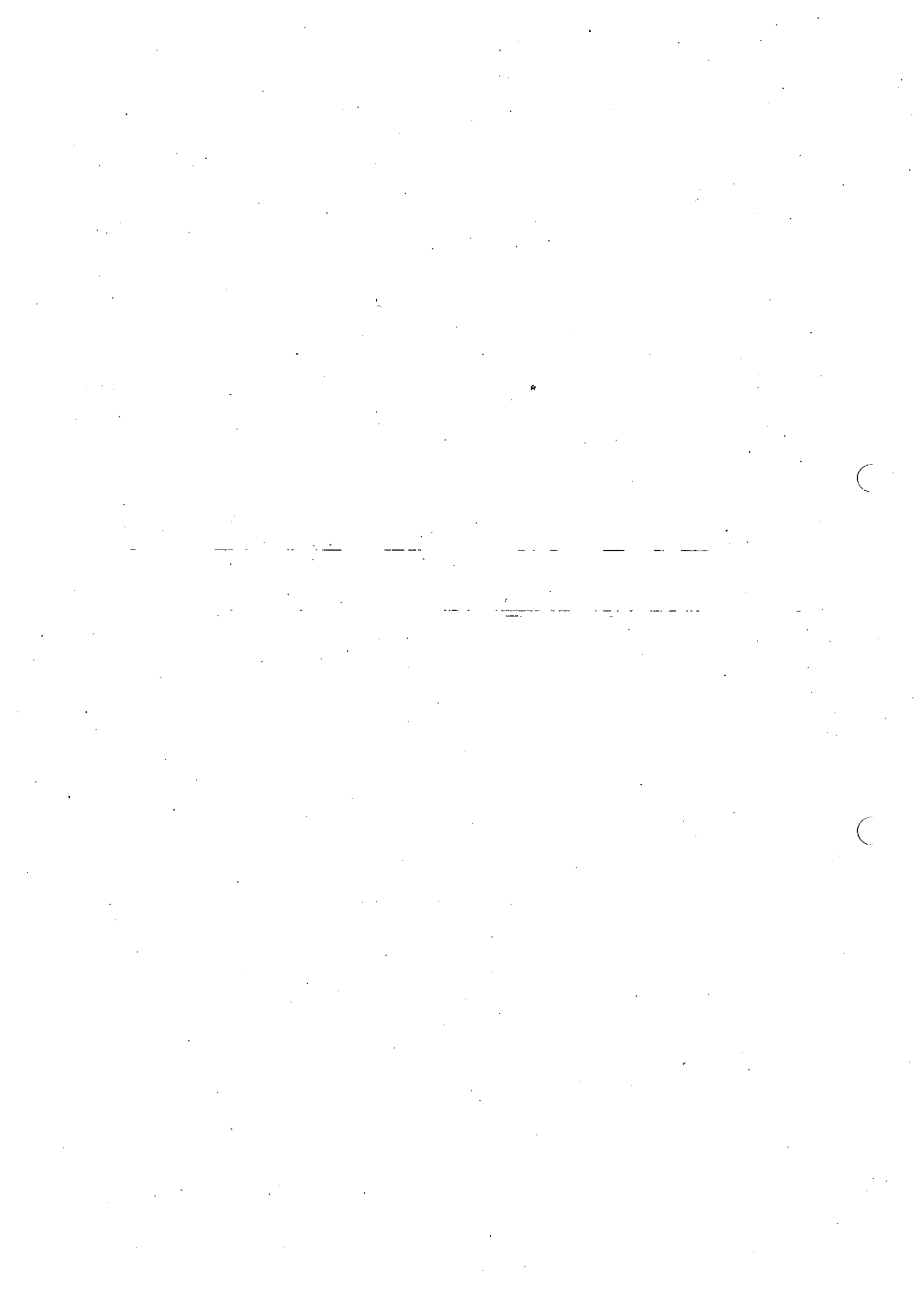
本制御は、水位不明時に給復水系、非常用炉心冷却系又は代替注水系を使用した注水操作を行い、更に炉圧を目安にした原子炉満水操作を行う。

注水操作は、使用できる全ての注水系のうちどれか1系統以上を作動させ、原子炉圧力とS/P圧力の差圧を原子炉満水最低圧力以上になるように注水操作を行う。

水位が判明した場合は、「水位確保」(RC/L)へ移行する。

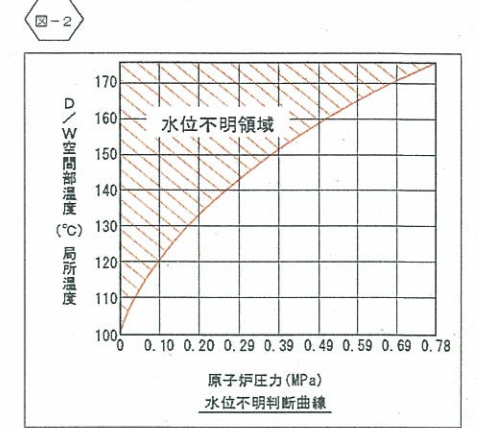
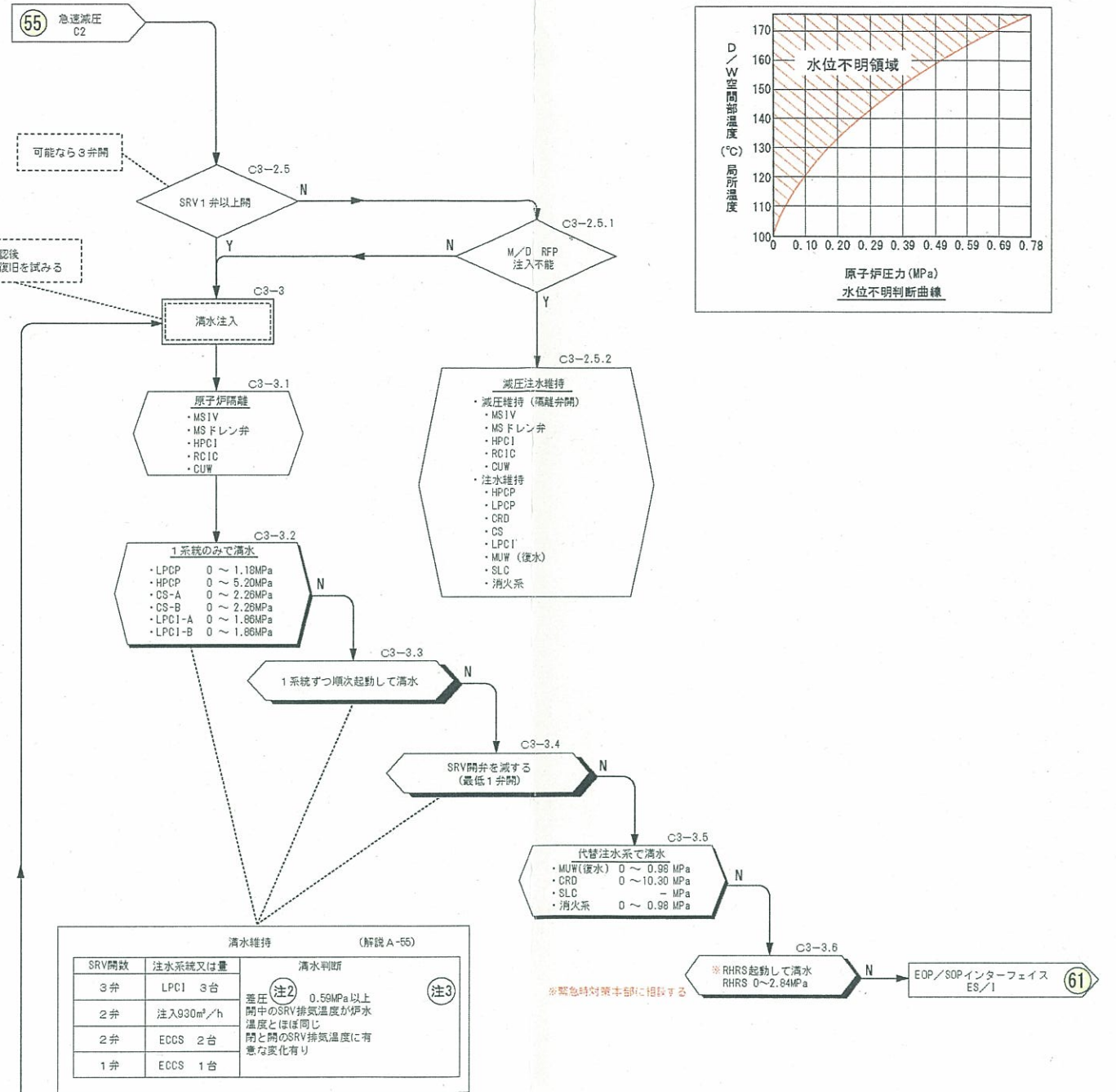
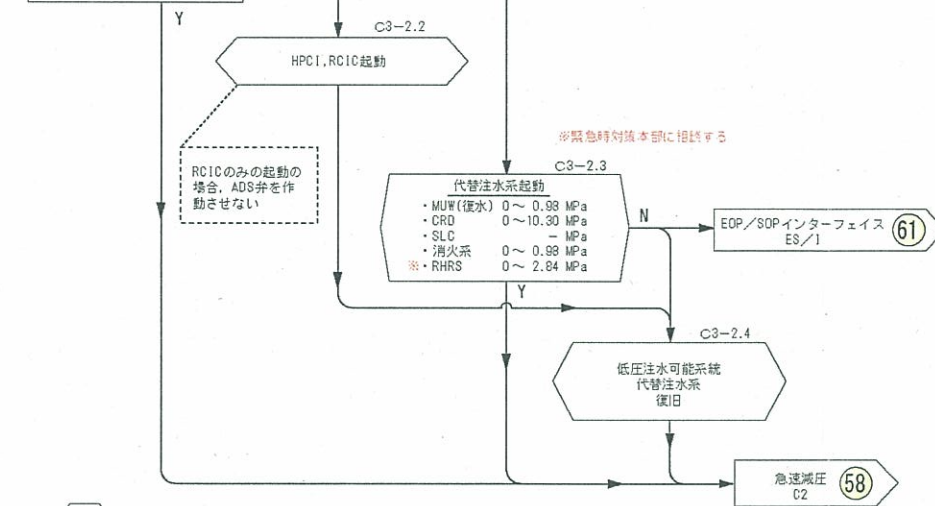
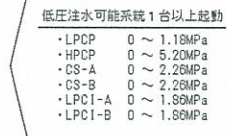
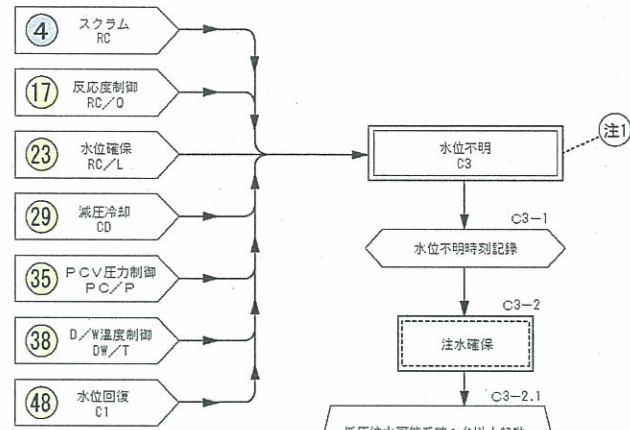
代替注水系でRHR Sにより海水を注入する場合は、緊急時対策本部(TSC)と相談により実施する。

(注1) 「反応度制御」(RC/Q)中は実行しないこと。



C3

「水位不明」



注意事項

注1 「反応制御」(RC/D)中は実行しないこと
 注2 差圧=炉圧-S/P圧力
 注3 差圧0.59MPa以上へ上らない場合SRV開放と注入系統数を調整する

原子炉満水の考え方
 原子炉満水最低圧力=S/P圧力+0.59MPa
 原子炉圧力で水位がTAF以上であることを把握。

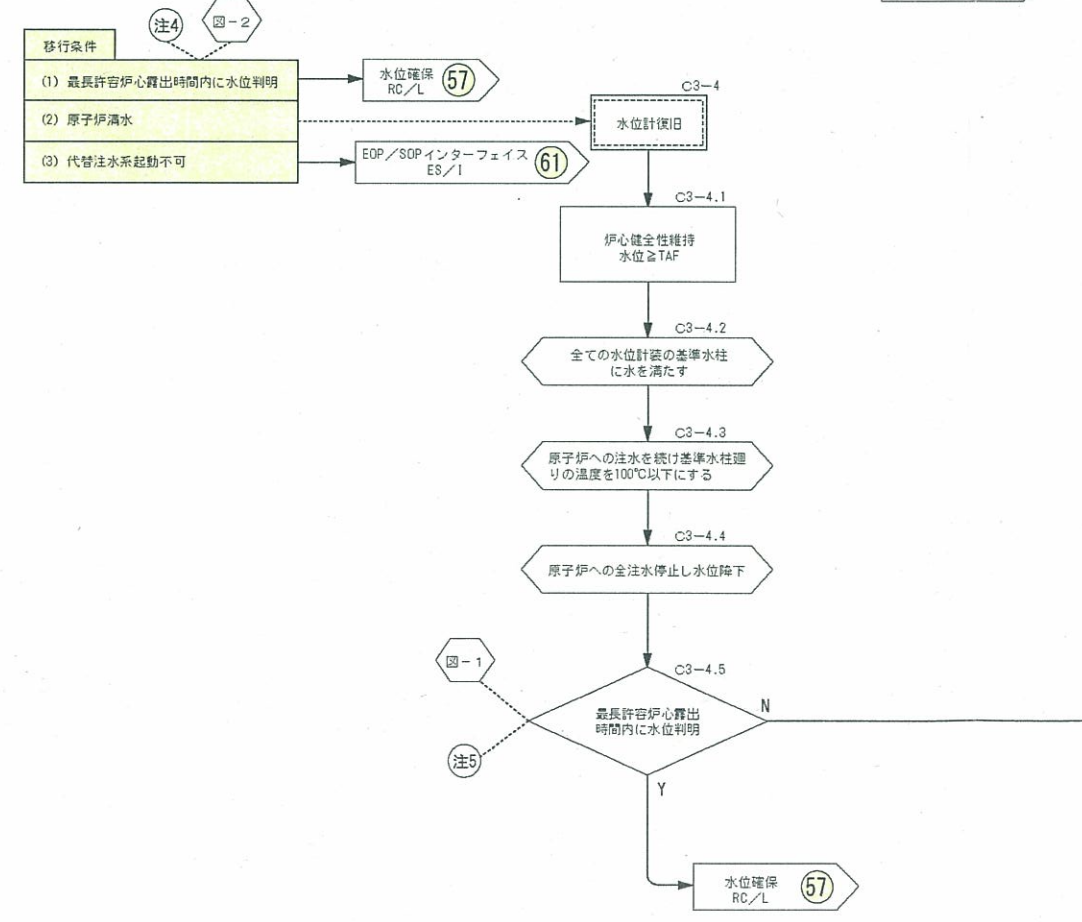
原子炉圧力はS/P圧力より原子炉満水に必要な差圧以上で、かつ出来るかぎり低い圧力に維持すること。LUCA時及び代替注水設備を使用した注水時等、RPVとS/P間の差圧を0.59MPa以上に確保できない場合のRPV満水状態の確認方法としては、以下により行うこと。

- 開放SRV排気管に設置されている温度計の指示値を、温度記録計にて確認する。
- この開放SRV排気管温度がRPV本体の水温とほぼ同一であり、かつ、他のSRV排気管温度と有意な差があることを確認する。

これにより、RPVへ注入された流体は開放SRV及び排気管を経由して、S/Pへ移送されていることが確認でき、また、RPVの水位はMSノズルレベル以上に確保されていることが確認できる。

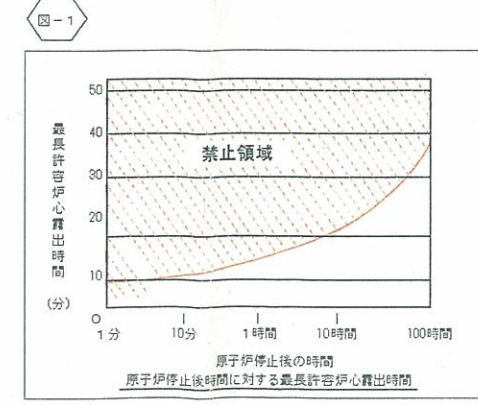
注4 水位判明とは、下記の場合。(AND)
 1. 水位計の電源が正常であること。
 2. 水位計の指示に「バラッキ」がないこと。
 3. 図-2の「水位不明領域」に入っていないこと。

注5 最長許容炉心露出時間を再度適用する場合には、5分以上の炉心冷却状態が維持されていることを確認する。 #21

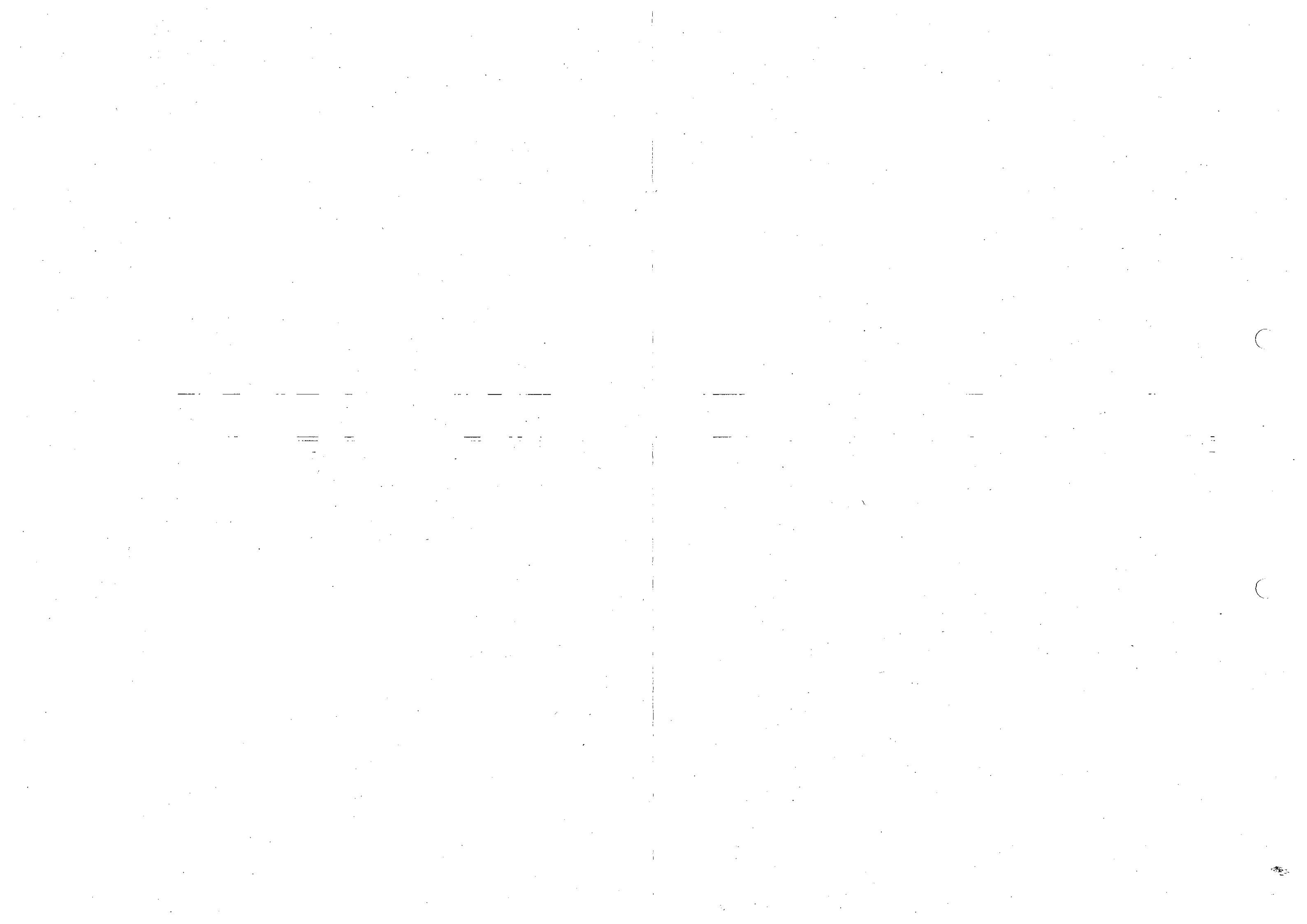


清水維持 (解説A-55)

SRV開放	注水系統又は量	清水判断
3台	LPCI 3台	差圧(注2) 0.59MPa以上 開中のSRV排気温度が炉水温度とほぼ同じ 開中のSRV排気温度に有意な変化有り
2台	注入930m ³ /h	
2台	EDCS 2台	
1台	ECCS 1台	



福島第一原子力発電所
C3
不測事態「水位不明」



ステップ	運 転 操 作	参 考 事 項	備 考
C 3	水位不明 (注1)	(注1) 「反応度制御」(RC/Q)中は実行しないこと。 「PCV水素濃度制御」(PC/H)も同時にいったことを確認する。	
C3-1	水位不明時刻を記録する。 (注5)	(注5) 水位不明時刻を炉心露出時刻として、露出時間の測定を開始する。	
C3-2	注水確保		
C3-2.1	<p>低圧注水可能システムを起動し、少なくとも1台以上作動した場合は、不測事態「急速減圧」(C2)へ移行する。 (補1)</p> <p>低圧注水可能システムの起動手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 復水系を起動する。 <ul style="list-style-type: none"> (1) ホットウェル水位を確保する。 (2) LPCP を起動する。 (3) HPCP を起動する。 (4) M/D RFP の FCV を「開」する。 FCV 開不能の場合は、M/D RFP を停止し、PNL9-6 T22 TF98Y03①とTF98Y04②をジャンパー後、RFP バイパス弁[MO-305]を「開」する。 2. CS-A 系を起動する。 3. CS-B 系を起動する。 4. LPCI-A 系を起動する。 5. LPCI-B 系を起動する。 	<p>(補1)低圧注水可能システムの運転可能な原子炉圧力は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LPCP 0～1.18MPa ・HPCP 0～5.20MPa ・CS-A系 0～2.26MPa ・CS-B系 0～2.26MPa ・LPCI-A系 0～1.86MPa ・LPCI-B系 0～1.86MPa 	解説 A-50
C3-2.2	<p>低圧注水可能システムが1台も作動しない場合はHPCI及び、RCICを起動する。 (補2)</p> <p>HPCI, RCIC の起動手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. HPCI 系を起動する。 <ul style="list-style-type: none"> (1) HPCI 系隔離を解除する。 (2) HPCI タービンをリセットする。 (3) HPCI 系を起動する。 #7 S/P 水位高、又は CST 水位低の信号が発生した場合、HPCI 系の吸込弁の自動切替を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> a. HPCI 系 S/P 側吸込隔離弁[MO-23-57, 58]「開」確認。 b. HPCI 系 CST 側吸込弁[MO-23-17]「閉」確認。 	<p>(補2)HPCI 又は、RCIC のみの起動の場合 ADS 弁を作動させない。</p> <p>注意事項#7 HPCI/RCICのタービン回転速度を許容連続運転範囲以下に絞り込まないこと HPCI [2060rpm (許容連続運転範囲)] RCIC [2275rpm (許容連続運転範囲)]</p>	<p>解説 A-50</p> <p>解説 B-7</p>

ステップ	運 転 操 作	参 考 事 項	備 考
	<p>2. RCIC系を起動する。</p> <p>(1) RCIC系隔離を解除する。</p> <p>(2) RCICタービンをリセットする。</p> <p>(3) RCIC系を起動する。【#7前ページ参照】 S/P水位高又は、CST水位低の信号が発生した場合は、RCIC系の吸込弁の切替を行う。</p> <p>a. RCIC系 S/P 側吸込隔離弁 [MO-13-39, 41]を「開」する。</p> <p>b. RCIC系の CST 側吸込弁 [MO-13-18]「閉」確認。</p>		
C3-2.3	<p>低圧注水可能システムが作動しない場合は更に、代替注水系を起動させ、低圧注水可能システムが作動した場合は、不測事態「急速減圧」(C2)へ移行する。代替注水系が作動しない場合は、低圧注水系の復旧を図ると共に「EOP/SOPインターフェイス」(ES/I)へ移行する。(補3)</p> <hr/> <p>代替注水系の起動手順</p> <p>1. MUW系(復水) (補4)</p> <p>(1) 復水移送ポンプを起動する。</p> <p>(2) 現場の各洗浄水弁「開」を確認し、各注入弁のCSを「開」とする。</p> <p>a. LPCI-A系注入弁 [MO-10-25A]</p> <p>b. LPCI-B系注入弁 [MO-10-25B]</p> <p>c. CS-A系注入弁 [MO-14-12A] (補5)</p> <p>d. CS-B系注入弁 [MO-14-12B]</p> <p>(3) RPV/PCV注入ライン流量調整弁 [MO-10-111]を「開」する。</p> <p>2. MUW系(復水)使用できない場合、消火系(FP)より注入する。</p> <p>(1) FP-MUW連絡第一弁 [MO-79-1250]を「開」する。</p> <p>(2) FP-MUW連絡第二弁 [MO-79-1251]を「開」する。</p> <p>(3) M/D消火ポンプあるいはD/D消火ポンプを起動する。</p> <p>(4) RPV/PCV注入ライン流量調整弁 [MO-10-111]を「開」する。</p> <p>(5) (4)までで注水できない場合、下記のECCS系の注入ラインのうち注入可能なラインの洗浄水弁を「開」する。</p> <p>a. RHR-A系 LPCI 注入ライン洗浄弁 [V-10-254, 255A]</p>	<p>(補3)代替注水系の運転可能な原子炉圧力は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MUW系(復水) 0～0.98MPa ・CRD系 0～10.30MPa ・SLC系 — MPa ・消火系 0～0.98MPa ・RHR海水系 0～2.84MPa <p>(補4)MUW系(復水)は、RHR,CSの洗浄ラインを用いる。</p> <p>(補5)CS系開不能の場合、第2注入弁 [MO-14-11A, B]の開確認後下記ジャンパーをし第1注入弁 [MO-14-12A, B]を開する。</p> <p>(12A)PNL9-3 RE57Y02$\text{\textcircled{2}}$～$\text{\textcircled{16}}$シ</p> <p>(12B)PNL9-3 RE59Y02$\text{\textcircled{2}}$～$\text{\textcircled{16}}$シ</p> <p>(R/B 1FL パーソナルエアロック室上)</p>	<p>解説 A-50</p> <p>参考資料 【参考5】 図3</p>

ステップ	運 転 操 作	参 考 事 項	備 考
	<p>b. RHR-B系 LPCI 注入ライン洗浄弁 [V-10-254, 255B]</p> <p>c. CS系 充水加圧 PCV バイパス弁 [V-79-751]</p> <p>3. CRD系 (1) CRD ポンプを起動する。 (2) CRD 駆動水流量調節弁 [FCV-3-19A/B] を手動にて「全開」する。 (3) CRD 駆動水圧力調節弁 [MO-3-20] を「全開」する。</p> <p>4. SLC系 (補6) (1) SLCタンク出口弁 [V-11-11] を「全閉」にする。 (2) SLCポンプ吸込ライン純水入口弁 [V-11-24] を「全開」する。 (3) SLCポンプ起動キースイッチを「ポンプA」又は「ポンプB」位置とし SLC系を起動する。 a. 潤滑油ポンプの起動を確認する。 b. SLCポンプの起動を確認する。 c. 「ほう酸水注入中」赤ランプ点灯及び、「ほう酸水注入弁起爆回路断線」警報発生を確認する。 (4) CUW系 隔離を確認する。 (5) SLCポンプ吐出圧力及びタンクレベルを確認する。</p> <p>5. 消火系 (補7) (1) 消火系～給水ヘッダー連絡メガネフランジを「通水側」にする。 (2) 消火系～給水ヘッダー連絡弁を「開」する。 a. 消火系～給水ヘッダー連絡ラインドレン弁 [V-32-123-1, 123-2] の「閉」を確認する。 b. 消火系～給水ヘッダー連絡弁 [V-77-40, V-32-107-1, 107-2] を「開」する。</p> <p>6. RHR海水系 (補8) (1) RHRS-RHR連絡メガネフランジを通水側に する。 (2) RHRSポンプ(B)又は(D)起動 (補9) (3) RHRS-RHR連絡弁を開する。 a. 格納容器海水浸水連絡ラインブロー弁 [V-10-288, 390] の「閉」を確認する。 (屋外主変圧器脇)</p>	<p>(R/B 1FL パーソナルエアロック室上)</p> <p>(R/B 2FL 東側)</p> <p>(補6)テストタンク使用の場合も、テストタンク出口弁開前に SLCタンク出口弁を閉にすること。</p> <p>(補7)消火系は給水ラインとの連絡管を用いる。</p> <p>(T/B 1FL ヒータルーム山側)</p> <p>(T/B 1FL ヒータルーム山側)</p> <p>(補8)RHR海水系による海水注入は、緊急時対策本部(TSC)相談の上実施する。(序-2-1参照)</p> <p>(補9)RHRSポンプが起動できない場合でも原子炉圧力が低い場合は注水ラインを構成すればろ過水タンクの水頭圧差により雑用水系から原子炉へ注水することができる。</p>	<p>参考資料 〔参考 5〕 〔図 4〕</p> <p>参考資料 〔参考 5〕 〔図 5〕</p> <p>参考資料 〔参考 5〕 〔図 1〕</p>

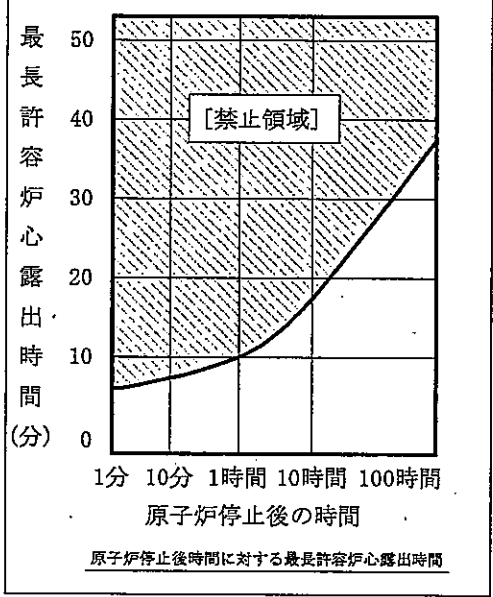
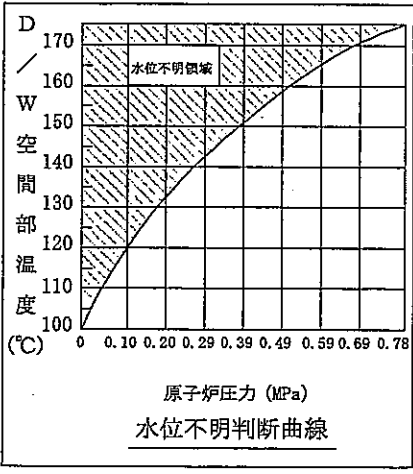
ステップ	運 転 操 作	参 考 事 項	備 考
	b. 格納容器海水浸水連絡弁[V-10-285, 522]「開」する。(屋外主変圧器脇) (4) RHR 第一注入弁(LPCI)[MO-10-25A(B)]を全開する。		
C3-2.4	HPCI又は、RCICだけが起動している場合及び、低圧注水可能系統、HPCI、RCIC、代替注水系の全部が起動しない場合は、低圧注水可能系統、代替注水系の復旧を行い、これらの系統が作動した場合は不測事態「急速減圧」(C2)へ移行する。		解説 A-50
C3-2.5	「急速減圧」(C2)からの導入を確認し下記の1~3の場合に、MSIV、MSドレン弁、HPCI、RCIC、CUWの隔離弁を閉じSRVを開放し「満水注入」(C3-3)を行う。 尚、開放するSRVは3弁とするが3弁を開放できないときは1弁以上開とする。(補10)		解説 A-51
C3-2.5.1	1. 1弁(急速減圧に必要な最小弁数)以上のSRVが開いているか、M/D RFPが注入可能なとき。 2. 水位計復旧において最長許容炉心露出時間内に水位が判明しないとき。 3. 急速減圧において水位が判明しないか、又は水位不明判断曲線に達した場合。	(補10)本制御は不測事態「急速減圧」(C2)を経由して導入されるためADS一に対応するSRVは開放されていないはずである。	
C3-2.5.2	1弁のSRVも開かず、しかもM/D RFPも注水不能の時は、下記の系統を使用して原子炉への注水維持を行うと共にMSIV、MSドレン弁、HPCI、RCIC、CUWの隔離弁を開けて減圧する。 ・LPCP ・HPCP ・CS系 ・LPCI系 ・MUW系(復水) ・CRD系 ・SLC系(水源:配管水張りライン、テストタンク、SLCタンク)		

ステップ	運 転 操 作	参 考 専 項	備 考
C3-3	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">満水注入</div>		
C3-3.1	原子炉を隔離する。 1. MSIV 内側, 外側弁「閉」 2. 主蒸気ドレンライン内側, 外側隔離弁「閉」 3. CUW 系内側, 外側隔離弁「閉」 4. HPCI 蒸気ライン内側, 外側隔離弁「閉」 5. RCIC 蒸気ライン内側, 外側隔離弁「閉」	(補1) 低圧注水可能系統の運転可能な原子炉圧力は以下の通り。 ・LPCP 0～1.18MPa ・HPCP 0～5.20MPa ・CS-A系 0～2.26MPa ・CS-B系 0～2.26MPa ・LPCI-A系 0～1.86MPa ・LPCI-B系 0～1.86MPa	
C3-3.2	低圧注水可能系統のうちいずれか1系統を使用して原子炉へ注入し, 注入流量を増して, RPVを加圧し, 3弁 (RPV 満水適正弁数) 以下のSRVを開け, 原子炉の圧力をS/Pの圧力より0.59MPa (RPV 満水確認最低圧力) 以上に保ちその圧力を維持する。 (補1) ②③	② 差圧=炉圧-S/P圧力 ③ 差圧0.59MPa以上に上らない場合, SRV開数と注入系統数を調整する。	解説 A-52
	低圧注水可能系統の起動手順		
	1. 復水系を起動する。 (1) ホットウェル水位を確保する。 (2) LPCPを起動する。 (3) M/D RFPのミニフロー弁を「開」する。 (4) HPCPを起動する。 (5) M/D RFPを起動する。 (6) M/D RFPのFCVを「開」する。 FCV開不能の場合は, M/D RFPを停止し, PNL9-6 T22 TF98Y03①とTF98Y04②をジャンパー後, RFPバイパス弁[MO-305]を「開」する。 2. CS-A系を起動する。 3. CS-B系を起動する。 4. LPCI-A系を起動する。 5. LPCI-B系を起動する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">原子炉満水の考え方</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> 原子炉満水最低圧力 = S/P圧力 + 0.59MPa以上 </div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 原子炉圧力で水位が TAF以上であることを把握。 </div>	

ステップ	運 転 操 作	参 考 事 項	備 考
C3-3.3	C3-3.2の操作にもかかわらず、原子炉圧力がS/P圧力より0.59MPa以上に保てないならば下記の系統を1系統ずつ順次起動してゆき、原子炉への注水流量を増加させてS/Pの圧力より0.59MPa以上に保つ。 (補1) ・復水系(LPCP, HPCP) ・CS系 ・LPCI系	(補1)原子炉圧力はS/P圧力より原子炉満水化に必要な差圧以上で、かつ、できる限り低い圧力に維持すること。LOCA時及び代替給水設備を使用し注水時等、RPVとS/P間の差圧を0.59MPa以上に確保できない場合のRPV満水状態の確認方法としては、以下により行うこと。	参考資料 (参考5) 図2
C3-3.4	C3-3.3の操作にもかかわらず、原子炉の圧力をS/Pの圧力より0.59MPa以上に保てないならば、SRVの開数を減らし(最低1弁開)差圧を0.59MPaにする。	1. 開放SRV排気管に設置されている温度計の指示値を温度記録計にて確認する。 2. この開放SRV排気管温度が、RPV本体の水温とほぼ同一であり、かつ他のSRV排気管温度と有意な差があることを確認する。	
C3-3.5	C3-3.4の操作にもかかわらず、原子炉の圧力がS/P圧力より0.59MPa以上に保てないならば、下記の代替注水系を全て用いる。 (補1) ・MUW系(復水) (補2) ・CRD系 ・SLC系(水源:配管水張ライン, テストタンク, SLCタンク) ・消火系 (補3) 代替注水系の起動手順 (補4)	これによりRPVへ注入された流体は開放SRV及び排気管を経由してS/Pへ移送されていることが確認でき、またRPVの水位はMSノズルレベル以上に確保されていることが確認できる。 (補2)MUW系(復水)は、RHR, CSの洗浄ラインを用いる。 (補3)消火系は給水ラインとの連絡管を用いる。 (補4)代替注水系の運転可能な原子炉圧力は以下の通り。 ・MUW系(復水) 0~0.98MPa ・CRD系 0~10.30MPa ・SLC系 - MPa ・消火系 0~0.98MPa (補5)CS系開不能の場合、第2注入弁[MO-14-11A, B]の開確認後下記ジャンパーをし第1注入弁[MO-14-12A, B]を開する。 (12A)PNL9-3 RE57Y02(25)ヶ~(16)ヶ (12B)PNL9-3 RE59Y02(25)ヶ~(16)ヶ	参考資料 (参考5) 図3
	1. MUW系(復水) (1) 復水移送ポンプを起動する。 (2) 現場の各洗浄水弁「開」を確認し、各注入弁のCSを「開」とする。 a. LPCI-A系注入弁[MO-10-25A] b. LPCI-B系注入弁[MO-10-25B] c. CS-A系注入弁 [MO-14-12A] (補5) d. CS-B系注入弁 [MO-14-12B] (3) RPV/PCV注入ライン流量調整弁[MO-10-111]を「開」する。 2. MUW系(復水)使用できない場合、消火系(FP)より注入する。 (1) FP-MUW連絡第一弁[MO-79-1250]を「開」する。 (2) FP-MUW連絡第二弁[MO-79-1251]を「開」する。 (3) M/D消火ポンプあるいはD/D消火ポンプを起動する。 (4) RPV/PCV注入ライン流量調整弁[MO-10-111]を「開」する。		

ステップ	運 転 操 作	参 考 事 項	備 考
	<p>(5) (4)までで注水できない場合、下記の ECCS 系の注入ラインのうち注入可能なラインの洗浄水弁を「開」する。</p> <p>a. RHR-A系 LPCI 注入ライン洗浄弁 [V-10-254, 255A]</p> <p>b. RHR-B系 LPCI 注入ライン洗浄弁 [V-10-254, 255B]</p> <p>c. CS系充水加圧PCVバイパス弁 [V-14-751]</p> <p>3. CRD 系</p> <p>(1) CRD ポンプを起動する。</p> <p>(2) CRD 駆動水流量調節弁 [FCV-3-19A/B] を手動にて「全開」する。</p> <p>(3) CRD 駆動水圧力調節弁 [MO-3-20] を「全開」する。</p> <p>4. SLC 系 (補 6)</p> <p>(1) SLC タンク出口弁 [V-11-11] を「全開」にする。</p> <p>(2) SLC ポンプ吸込ライン純水入口弁 [V-11-24] を「全開」する。</p> <p>(3) SLC ポンプ起動キースイッチを「ポンプ A」又は「ポンプ B」位置とし SLC 系を起動する。</p> <p>a. 潤滑油ポンプの起動を確認する。</p> <p>b. SLC ポンプの起動を確認する。</p> <p>c. 「ほう酸水注入中」赤ランプ点灯及び、「ほう酸水注入弁起爆回路断線」警報発生を確認する。</p> <p>(4) CUW 系隔離を確認する。</p> <p>(5) SLC ポンプ吐出圧力及びタンクレベルを確認する。</p> <p>5. 消火系</p> <p>(1) 消火系～給水ヘッダー連絡メガネフランジを「通水側」にする。</p> <p>(2) 消火系～給水ヘッダー連絡弁を「開」する。</p> <p>a. 消火系～給水ヘッダー連絡ラインドレン弁 [V-32-123-1, 123-2] の「閉」を確認する。</p> <p>b. 消火系～給水ヘッダー連絡弁 [V-77-40, V-32-107-1, 107-2] を「閉」する。</p>	<p>(R/B 1FL パーソナルエアロック室上)</p> <p>(R/B 1FL パーソナルエアロック室上)</p> <p>(R/B 2FL 東側)</p> <p>(補 6) テストタンク使用の場合も、テストタンク出口弁開前に SLC タンク出口弁を閉にすること。</p> <p>(T/B 1FL ヒータルーム山側)</p> <p>(T/B 1FL ヒータルーム山側)</p>	<p>参考資料 〔参考 5〕 〔図 4〕</p> <p>参考資料 〔参考 5〕 〔図 5〕</p>

ステップ	運 転 操 作	参 考 事 項	備 考
C3-3.6	C3-3.5 の操作にもかかわらず、原子炉の圧力がS/P圧力より0.59MPa以上に保てないならば、RHR海水ポンプを起動し注水を実施する。 (C3-2.3参照) (補7)(補8)(補9) 前項までの操作にもかかわらず、原子炉圧力をS/P圧力より0.59MPa以上に保てずECCS系が全系統運転不能なときは、注水システムの復旧を行う。	(補7)RHR海水系の運転可能な原子炉圧力は0~2.84MPa (補8)RHR海水系による海水注入は、緊急時対策本部(TSC)相談の上実施する。(序-2-1参照) (補9)RHRSポンプが起動できない場合でも原子炉圧力が低い場合は注水ラインを構成すればろ過水タンクの水頭圧差により雑用水系から原子炉へ注水することができる。	参考資料 (参考5) (図1)

ステップ	運 転 操 作	参 考 事 項	備 考
C3-4	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">水位計復旧</div>	(補1) 水位を確認するため、一旦水位を下げる。 下記図は次のように使うこと。 例えばスクラム後10分で水位が有効燃料頂部以下となった場合には許容し得る炉心露出は8分までである。同様にスクラム後1時間では10分 10時間では18分 100時間では37分	
C3-4.1	前記の操作により原子炉の圧力をS/Pの圧力より0.59MPa以上に維持できていれば炉心健全性は維持されている。(水位TAF以上) 従って以下の水位計復旧操作は、対応する余裕があるときのみ試みればよい。		解説 A-53
C3-4.2	水位計の基準水柱に水を満たす。		制限図 (図 C-4)
C3-4.3	原子炉への注水を続け基準水柱の廻りの温度を100℃以下にし、水位計を使用可能とする。		
C3-4.4	炉水位を読みとるため、注水を全て停止し、原子炉水位を下げる。 (補1)	最長許容炉心露出時間	解説 A-54
C3-4.5	前項の操作開始後原子炉水位計の指示が右記グラフ (最長許容炉心露出時間) 以内に読めない場合は、C3-3.2へ戻る。 #21 水位が判明した場合は、「水位確保」(RC/L)へ移行する。 ④	<div style="text-align: center;">  <p>原子炉停止後の時間 原子炉停止後時間に対する最長許容炉心露出時間</p> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>注意事項 # 2 1 最長許容炉心露出時間を再度適用する場合には、5分以上の炉心冷却状態が維持されていることを確認する。</p> <p>④ 水位判明とは、下記の場合。 (AND) 1. 水位計の電源が正常であること。 2. 水位計の指示に“バラツキ”がないこと。 3. 図-2の“水位不明領域”に入っていないこと。</p> </div>	制限図 (図 C-3) 解説 B-21
	<div style="text-align: center;">  <p>原子炉圧力 (MPa) 水位不明判断曲線</p> </div>		

